

福祉人材センター × 介護福祉士会



ふくし・かいご通信

発行：社会福祉法人北海道社会福祉協議会
北海道福祉人材センター ☎011-272-6662

2026
7月
No. 60



北海道福祉人材センター
HPリンク

北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。

今月のテーマ

「現場で働く私たち」

一般社団法人北海道介護福祉士会 空知支部 宮川 功己 氏

北海道介護福祉士会 空知支部 副支部長

医療法人緑光会 認知症高齢者グループホームふれ愛の家 介護福祉士



◆今の職場を選んだ理由

私が介護の道を選んだ理由は、幼い頃から曾祖母や祖父母と過ごす時間が多く、一緒に公園で遊んだり、好きな料理を作ってもらったり、キャンプに連れて行ってもらったりと高齢者との関わりが身近にあったからです。将来は高齢者の力になれる仕事がしたいと思い、介護の専門学校へ進学しました。

卒業後は、介護老人保健施設に就職しました。在宅復帰を目指す利用者様の生活を支える中で、排泄介助や食事介助、記録業務などに携わってきました。専門学校で学んだ身体介助やコミュニケーション技術を生かし、一人ひとりの日々の状態に応じた介護にやりがいを感じていました。一方で、限られた時間の中で、利用者様一人ひとりとゆっくり関わる事が難しいと感じる事もありました。そこで「一人ひとりの生活に寄り添う介護がしたい」と思い、友人に相談したり、介護求人サイトで情報収集をしたりする中で、グループホームの事を知りました。そして、現在勤務している「認知症高齢者グループホームふれ愛の家（以下、ふれ愛の家）」を見学しました。

「ふれ愛の家」では、職員が利用者様とゆっくり関わり、「人と人との絆、ぬくもり、『我が家』の暮らしをめざす」という理念のもと、その人らしい生活を大切にしている姿に強く心を動かされ転職を決意しました。

「ふれ愛の家」に勤めて9年経ちます。利用者様と一緒に料理や掃除、洗濯などの家事を家族のように自然な形で、毎日笑顔が絶えない日常を支えています。また、急な体調の変化にも多職種と連携しながら対応を重ねる中で、専門学校や介護老人保健施設で培った知識や経験を生かし、一人ひとりの状況に応じて考え、行動する力が養われました。



◆ICT 導入について

当事業所では、介護日誌や介護計画書などの記録を2023年度から介護ソフトへ移行し、ICTの導入が始まりました。以前は、すべて手書きで記録を行い、日中勤務スタッフ平均3名の中、利用者様の見守りや食事・入浴介助、調理などを行いながら記録をするため、記録業務に多くの時間を費やしていました。

導入当初は、職員の半数以上がパソコン操作に慣れておらず、「どこに入力すればよいのか」「操作が難しい」と戸惑う声もありました。そのため、操作マニュアルを作成し、職員同士で教え合いながら少しずつ活用を進めていきました。

現在では、タブレットでその場で記録できるようになり、手書きによる記録作業が減ったことで、記録にかかる時間が短縮されました。また、情報が見やすくなり、職員間で必要な情報をすぐ確認できるようになりました。その結果、記録や情報共有にかかる負担が軽減され、利用者様の小さな変化に気づきやすくなり、より丁寧なケアにつながっています。

一方で、電子機器が苦手な職員もいるため、操作方法の見直しや継続的なサポートは今後も必要だと感じています。しかし、ICT は介護を効率化するだけでなく、職員間の情報共有を円滑にし、より質の高いケアを提供するための大切なツールであり、今では現場に欠かせない存在となっています。

※参考 高齢者介護をサポートするレクリエーション情報誌「レクリエ」より
介護記録の書き方【2】～伝えるために必要なこと～ (<https://recrea.jp/reading/1540/>)

◆人材育成について

当事業所では、技能実習生を3年前よりスリランカから2名を受け入れています。入職当初は、介護記録や専門用語、日本独特の言い回しなど、言葉の壁を感じる場面もありました。そのため、ユニットリーダーをはじめ職員全員が、専門用語を分かりやすい言葉に置き換えたり、ゆっくり話したり、写真やイラストを活用したりするなど、一人ひとりの理解度に合わせた指導を行ってきました。仕事だけでなく、入居者様や職員との交流を通して、日本の文化や生活習慣を学べる環境づくりにも取り組んでいます。一方で、私たちもスリランカの伝統的な衣装や音楽、日本ではあまり見られない香辛料使った食事に触れる機会をもちました。異なる文化や価値観を知ることによって、お互いを理解が深まり、職場全体に新しい学びや活気が生まれています。

また、人材育成にも力を入れています。介護福祉士の資格取得を目指す職員には研修受講や受験を支援しています。また、経験に応じてユニットリーダーや管理者を目指すキャリアアップの仕組みも整えています。介護職員処遇改善加算を活用し、介護福祉士やケアマネジャーとして10年以上勤務した職員には役職への登用など、それぞれの目標に合わせて成長できる環境づくりに努めています。

◆施設紹介

医療法人緑光会「認知症高齢者グループホームふれ愛の家」は、岩見沢市の東、三笠市寄りに位置しています。開設当初は2階建て3ユニット（27名定員）でしたが、法律改正により現在は1階の2ユニット（18名定員）で運営しています。入居されている方は比較的介護度が低く、食材の買い物や料理、洗濯など出来る事は職員と一緒にしながら生活されています。また、野宮病院が併設されており、連携体制が整っているので体調の変化等があった際は、迅速で安心できる医療・介護を提供しています。



※画像引用 医療法人緑光会 野宮病院のホームページより

◆読者へのメッセージ

介護現場は、以前に比べ ICT の導入が進み、記録や情報共有も効率化されています。介護の仕事は、腰痛や精神的ストレスといった体調の変化が起きてしまうこともあり、決して楽な仕事ではありません。

ですが、入居者様の笑顔や「ありがとう」「助かった」の言葉をもらうと励みになり頑張れます。一度、現場を離れても以前より働きやすい環境づくりが進んでいます。

当事業所では、経験の有無を問わず、ベテラン職員が一つひとつ丁寧に教え、お互いに尊重し支え合い、働き続けられる職場づくりを心掛けています。是非、もう一度介護の仕事に触れて頂けるのであれば、その際は「認知症高齢者グループホームふれ愛の家」にも見学にいらしてください。

医療法人緑光会 認知症高齢者グループホームふれ愛の家

開設：2003年3月01日

入居定員：18名（2ユニット。1ユニット9名）

介護度：要支援2が1名。他、要介護2～3の方が入居されています。

理念：人と人の絆、ぬくもり、『我が家』の暮らしをめざす

ホームページ：<https://nomiya-hp.or.jp/group/fureai/>



一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に寄与している団体です。 ★ 新入会員募集中 ★



ホームページ
はこちら



入会のご案内
はこちら

TEL&FAX 011-222-5200

北海道福祉人材センターからのお知らせ

定員 30 名！

申込みはお早めに

令和8年度 第1回福祉人材ステップアップ講習会

「やってみたい」を引き出そう！



申込みは
こちら

参加
無料



アクティビティ・ケア
～心を動かす関わり方を学ぶ～

福祉職場未経験・無資格者歓迎
(福祉の仕事に興味のある方ならば、どなたでも参加可能です)

日時

2026年 8月4日 火
9:50～12:00 (受付開始 9:30)

会場

かでの2.7
10階 1040会議室

なかうね けいこ

講師

中宇禰 圭子氏
くしろせんもん学校 介護教員



「ふくし・かいご通信」を
お読みいただきありがとう
ございます。

皆さまからのご感想をお待ちして
おります。

ご感想
入力フォーム



<https://forms.gle/dMtqQ1vNVuGNthSz5>

北海道福祉人材センターでは、福祉職場への就職に関する
相談を随時受付けております。

TEL 011-272-6662



発行：社会福祉法人北海道社会福祉議会
北海道福祉人材センター